

高速増殖炉研究開発センター

○「もんじゅ」プラント作業状況



【ACS送風機 巡視点検】

機器異常の早期発見に努めることを目的として、各設備・各機器の確実な巡視点検（外観、漏えい、異音、異臭、振動、過熱、指示値確認等）を実施しています。

写真は、運転停止時に原子炉の崩壊熱を除去する補助冷却系設備（ACS）用送風機の巡視点検の様子で、外観点検、軸受オイルレベルの確認、漏えい点検を行っています。

原子炉廃止措置研究開発センター

○「ふげん」プラント作業状況



【B復水器下部胴の解体撤去作業】

「ふげん」における平成26年度の廃止措置関連の主要工事として、B復水器下部胴の解体撤去作業を実施しています。

ここでの切断作業では、今後の解体撤去工事の作業計画作りに活用する観点から、解体対象物（炭素鋼板：厚さ約22mm）の切断時間・速度や本作業における作業人工数などのデータを採取しています。

FBR安全技術センター



【「もんじゅ」の技術者による発表】

センターでは、若手研究者が自らの研究課題や成果について発表・議論する場として、研究開発検討会を開催しています。今年度からは、「もんじゅ」の技術者からの発表も合わせて実施し、高速炉の保全技術等について議論を行い、研究能力・技術力の向上に努めています。

編集後記

今回は「もんじゅ改革特集」としてこれまでの主な成果についてご紹介しました。昨年10月にスタートした改革は間もなく1年を迎えようとしており、ご紹介した以外にも様々な取り組みがなされ、その成果が表れてきていますが、明らかに感じるのは「もんじゅ」の現場の一人ひとりに活気が生まれ、雰囲気明るくなってきたということです。改革により変わりつつあるもんじゅ。これからも見守っていただけますよう宜しくお願い致します。(J)

● 本資料に関するお問合せ先 ●

日本原子力研究開発機構 敦賀本部 業務統括部広報課

Tel : 0770-21-5023 Fax : 0770-25-5782 ホームページアドレス <http://www.jaea.go.jp>

発行：平成26年9月1日



原子力機構 敦賀本部からのお知らせ

もんじゅ改革 特集

～改革の現状をご紹介します～

第3回「もんじゅ安全・改革検証委員会」を開催

原子力機構では、「もんじゅ」について「不断的努力により自発的に安全を追求し、国民の負託に応え、高速増殖炉としての成果を発信することで社会への貢献を果たせる組織」とするため、「もんじゅ」改革を進めています。

この改革の進捗及び定着状況を客観的に検証することを目的として、外部の有識者からなる「もんじゅ安全・改革検証委員会」を設置しており、これまで2回の会合における委員のご意見や、その後の進捗を踏まえた第3回会合が7月18日に敦賀本部のアトムホールで開催されました。

今回は、この会合で報告されたもんじゅ改革のこれまでの成果についてお知らせします。

もんじゅ安全・改革検証委員会 委員

委員長	阿部 博之	独立行政法人科学技術振興機構顧問
委員	宇多川 隆	公立大学法人福井県立大学理事・副学長
委員	大場 恭子	国立大学法人東京工業大学 特任准教授
委員	小澤 守	学校法人関西大学 教授 学部長
委員	橋詰 武宏	ジャーナリスト
委員	宮野 廣	学校法人法政大学大学院 客員教授
委員	和気 洋子	学校法人慶應義塾大学 名誉教授



集中改革期間は第4四半期に

もんじゅ改革は以下のスケジュールで昨年10月からの1年間を集中改革期間として実施しています。現在はこれまでの成果について、自らの評価を実施しています。

＜もんじゅ改革のスケジュール＞

	平成25年 10-12月	平成26年 1- 3月	平成26年 4- 6月	平成26年 7-9月
集中 改革 期間	計画 ▽H25.12.16 第1回検証委員会			実施 ▽H26.7.18 第3回検証委員会
	・計画立案と体制整備 ・保守管理不備対応	・実績の積み重ね ・4月の組織再編準備	・実績の積み重ね ・成果が確認される時期	・実績の積み重ね ・成果の評価と定着
確認 す べき 視点	①適確な経営資源投入を行っているか ②計画方針は適確か	①着実に実施されているか ②実績が成果に結びつきそうか ③方向転換が必要な対策はないか	①活動が形骸化していないか ②目的に対する成果が妥当であるか	①改革成果達成度の評価 ②定着状態の評価 ③新たな課題の妥当性 ④実施状況の国民への示し方

もんじゅ改革を成し遂げるための14の対策

もんじゅ改革は【体制改革】【風土の改革】【人の改革】の3つを基本方針として掲げるとともに、これを成し遂げるための具体的な対策として、下記の14項目に対して基本計画及び実施計画を定めて推進しています。

基本方針	対策項目
【体制改革】 発電プラントとして 自立的な運営管理 体制の確立	【対策1】理事長を本部長とする「もんじゅ安全・改革本部」による改革の推進
	【対策2】「もんじゅ」組織、支援組織の強化
	【対策3】トップマネジメントによる安全確保のための経営資源の集中投入
	【対策4】保守管理方法、業務の進め方の見直し
	【対策5】電力会社の運営管理手法の導入
	【対策6】メーカ・協力会社との連携強化
【風土の改革】 安全最優先の組織 風土への変革	【対策7】安全統括機能、リスクマネジメント及びコンプライアンス活動の強化
	【対策8】安全最優先の意識の浸透
	【対策9】保守管理体制・品質保証体制の強化
	【対策10】安全文化醸成活動、コンプライアンス活動の再構築
【人の改革】 マイプラント意識の 定着と個々人の能力を 最大限発揮できる現場 力強化への改革	【対策11】「もんじゅ」を運転する意義の浸透、マイプラント意識の定着
	【対策12】運転・保守技術等に関する教育充実、技術力を認定する制度の確立
	【対策13】原子力機構やメーカのシニア技術者による技術指導
	【対策14】「もんじゅ」の運転・保守から得られる技術を蓄積し、技術継承を図る

これまでの主な具体策及び成果

◆【対策1】トップマネジメントの体制を構築

もんじゅ安全・改革本部を設置し、原子力機構の理事長が毎週「もんじゅ」で開催される本部会議に出席して、改革の陣頭指揮を行っています。これにより、理事長の意思が「もんじゅ」の運営に円滑に反映されるようになりました。

◆【対策2】組織の再編成

「もんじゅ」の組織を保守管理上の不備問題への対応とプラント維持管理に専念できるようにするため、組織の改編を原子力規制委員会に申請しました。



もんじゅ安全・改革本部会議

◆【対策3】改革を実施する要員を補強

他拠点からの異動、実務経験者の採用等により改革を実施する要員を確保しました(62名を追加配置)。これにより、業務量に応じた体制を組めるようになりました。

◆【対策4】保守管理体制の再構築

保守管理業務支援システムの導入により、適切に保守業務の管理ができるようになり、未点検機器の発生を抑制しています。

◆【対策5】電力会社の運営管理手法の導入

電力会社から指導的な技術者14名(所長代理級から課長代理級)を受け入れ、電力会社の発電所運営管理に関する知見を活用した技術指導を受けています。一方で、電力会社の原子力発電所に機構職員を派遣し、実務を通じて発電プラント運営管理手法を習得しています。

◆【対策8】トップダウンとボトムアップの融合

安全確保最優先との理事長宣言が現場に浸透させる活動として、職員との直接対話を実施するとともに、理事長提案箱による意見集約も行っています。職員から得られた意見を取り入れた改善を実施することで、トップダウンとボトムアップの融合を促進し、職員に「見える化」として意見反映状況を掲示する等の施策により、安全意識が浸透しつつあります。

◆【対策10】安全文化醸成活動等の再構築

安全文化醸成改革推進チームを設置し、業務改善とルールの改善を行っています。また、安全文化に関する自己評価の結果に基づき、各部署の強みと弱みを把握して、安全文化をより高めていくための対策を行っています。

◆【対策11】マイプラント意識の定着

職員の業務に対する使命感と意欲を高める活動として、勉強会、意見交換会を計画的に実施しています(エネルギー基本計画勉強会、もんじゅ研究計画勉強会、設計技術検討会、根本原因分析結果の勉強会等)。これにより、マイプラント意識の高まりが感じられています。

◆【対策12】教育制度の再構築と意欲高揚活動

保守技術者に要求される技術的能力を明確に定義した上で、保全担当部署独自の技術認定制度を構築し、育成計画の見直しを実施しています。また、技術評価の技術チェックと指導に専念する保守経験を有した人材を配置することにより、若手職員の技能向上を図っています。



他拠点からの異動者の決起集会



電力会社での執務



理事長ともんじゅ職員との直接対話



設計技術検討会

上記のような活動により改革の意識が浸透し、マイプラント意識の高まりが感じられ、「もんじゅ」をより安全に運用する体制が構築されつつあります。今後は、これまで以上に努力し、強みを伸ばすとともに弱みを克服して、更なる改革の成果を出してまいります。